

		事務事業No.	17-	9	
事業名	文化財保護経費	会計	款	項	目
		一般	10	5	5
政策	6 人生を豊かにするために	課名	社会教育課		
施策	6-3 文化力の向上	係名	生涯学習係		

1 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	町内の文化財	目的 (対象がどのような状態になっているか)	重要な文化財の保存と活用を図り、今後の世代へ継承する。
事業内容	町内の文化財の調査・指定及び保護を行うとともに、町内の文化財保護団体に対して補助金の交付を行うことによって存続と継承を支援する。郷土資料館において町内の郷土資料の収集・保存・展示を行う。			

2 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	指標名		令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	目標方向	令和7年度 (目標)	
	1								
	2								
	3								
	4								
	5								
			令和2年度 (決算)		令和3年度 (決算)		令和4年度 (予算)		
全体事業費 (千円) A+B					2,566	3,404	8,844		
財源内訳	直接事業費 A				1,246	1,886	1,584		
	うち一般財源				1,246	1,886	1,584		
人件費 (千円) B					1,320	1,518	7,260		
内訳	一般職員 (人・千円)		0.20	1320	0.23	1518	1.10	7,260	
	臨時職員 (人・千円)		0	0		0		0	

3 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善<※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性は高まると考えられる	有効性	目標達成度	B 達成できなかった
		町関与の必要性	B 町が担うとともに、町民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適正である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	I 拡 充 (事業内容を現在の規模を超えて拡充すべき)					

(2) 事務事業の業務改善について

①R3年度の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> 町天然記念物を後世に伝え、残すため、後継木の適正な生育管理に取り組む。 郷土資料館は、展示品の使い方を体験できる方法を研究し、魅力ある資料館を目指す。 	③取組の課題	トウインヤエヤマザクラをはじめ、観音もみじなど単体での指定であり、近年の環境の変化が危惧される。また、郷土資料館の来館者増加の伸び悩みが顕著である。
②R3年度に実施した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 樹木医への委託・管理の下で天然記念物の維持を図った。天然記念物トウインヤエヤマザクラ第1号(後継樹)が枯れたため、指定を解除した。 	④今後の改善計画	急激な環境の変化による樹勢の衰えの把握に努める。また、伝統文化行事の後継者の人材育成の支援、郷土資料館にあっては引き続き周知に努める。